

平成24年4月 東京地区百貨店売上高概況

平成24年5月18日

I. 概況

1. 売上高総額	1,214億円余
2. 前年同月比	6.7% (店舗数調整後/2か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭6.0%(88.1%) : 非店頭11.9%(11.9%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 26店 (平成24年3月対比±0店)
5. 総店舗面積	911,369㎡ (前年同月比:-0.8%)
6. 総従業員数	19,118人 (前年同月比:-1.0%)
7. 3か月移動平均値	9-11月 -2.8%、10-12月 -1.4%、11-1月 -1.7%、 12-2月 -1.3%、1-3月 6.1%、2-4月 10.2%

[参考] 平成23年4月の売上高増減率は-5.5% (店舗数調整後)

【4月売上の特徴】

- (1) 前年の4月は、震災後の自宅近くで買い物を済ます傾向が広がった影響で、都心部の各店いずれも苦戦を強いられたが、今年はその反動で売上・客数共に大幅な伸びを示した。
- (2) 衣料品は全般的に好調だったが、特に紳士服は二桁増(+16.4%)と健闘し、売上を牽引する要因となった。主にクールビズの前倒し傾向が背景にあるが、今年はシャツや肌着などの軽衣料だけでなく、スーツやジャケットなど高単価の商材にも動きが見られた。
- (3) 美術・宝飾・貴金属や海外ブランドなど高額商品は引き続き好調に推移した。富裕層消費における本物志向の強まり、更には外国人観光客の復調などが要因となっている。
- (4) 今年は桜の開花が遅れた影響で花見商戦が4月に集中展開され、関連商材である弁当やオードブルなどの惣菜売上(+9.4%)が大幅な伸びとなった。
- (5) 5月中旬までの都内各店の商況は、ゴールデンウィークの悪天候で入店客数に若干の影響もあったが、売上についてはほぼ前年並みで推移している店が多い。

【要因】

- (1) 営業日数増減 29.2日 (前年同月比-0.8日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
①増加した: 12店、②変化なし: 4店、③減少した: 3店、④不明: 1店
- (3) 4月歳時記 (春物商戦、新生活、花見、昭和の日) の売上 (同上)
①増加した: 6店、②変化なし: 6店、③減少した: 2店、④不明: 6店
- (4) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)
①増加する: 4店、②変化なし: 13店、③減少する: 2店、④不明: 1店

東京地区百貨店 売上高速報 2012年04月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
総 額	121,437,399	100.0	6.7 (5.8)
紳士服・洋品	10,339,923	8.5	16.4
婦人服・洋品	25,739,500	21.2	7.3 (6.6)
子供服・洋品	2,998,110	2.5	4.8
その他衣料品	2,125,605	1.8	3.6
衣 料 品	41,203,138	33.9	9.0 (8.6)
身のまわり品	17,264,311	14.2	8.7 (5.6)
化粧品	6,695,880	5.5	7.2
美術・宝飾・貴金属	6,363,091	5.2	12.3
その他雑貨	6,681,339	5.5	1.9
雑 貨	19,740,310	16.3	6.9
家具	1,846,880	1.5	0.2
家電	767,899	0.6	36.5
その他家庭用品	4,954,328	4.1	5.6 (4.4)
家庭用品	7,569,107	6.2	6.7 (5.8)
生鮮食品	4,578,597	3.8	0.5
菓子	7,174,956	5.9	0.6
惣菜	6,350,593	5.2	9.4
その他食料品	8,075,696	6.7	-3.3 (-4.2)
食 料 品	26,179,842	21.6	1.3 (1.0)
食堂 喫茶	3,063,337	2.5	14.2 (12.8)
サービス	3,015,186	2.5	5.2
そ の 他	3,402,168	2.8	6.2 (2.7)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)
※

商品券	3,614,147 千円	-52.0 (-52.1)
従業員数	19,118 人	-1.0
店舗面積	911,369 m ²	-0.8

営業日数	29.2 日	前年	30.0 日
------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、先月に引き続き衣料品、身のまわり品、雑貨、家庭用品、食料品の全品目がプラスとなった。その他の品目は、その他食料品がマイナスしたが、その他はプラスとなり、中でも紳士服・洋品、美術・宝飾・貴金属、家電は二桁プラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	6.7	—	2か月連続プラス
紳士服・洋品	16.4	1.3	7か月連続プラス
婦人服・洋品	7.3	1.5	2か月連続プラス
子供服・洋品	4.8	0.1	2か月連続プラス
その他衣料品	3.6	0.1	48か月ぶりプラス
衣料品	9.0	3.0	2か月連続プラス
身のまわり品	8.7	1.2	2か月連続プラス
化粧品	7.2	0.4	3か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	12.3	0.6	3か月連続プラス*
その他雑貨	1.9	0.1	2か月連続プラス*
雑貨	6.9	1.1	3か月連続プラス
家具	0.2	0.0	13か月ぶりプラス
家電	36.5	0.2	3か月連続プラス
その他家庭用品	5.6	0.2	2か月連続プラス
家庭用品	6.7	0.4	2か月連続プラス
生鮮食品	0.5	0.0	4か月連続プラス*
菓子	0.6	0.0	3か月連続プラス*
惣菜	9.4	0.5	9か月連続プラス*
その他食料品	-3.3	-0.2	2か月ぶりマイナス*
食料品	1.3	0.3	3か月連続プラス
食堂喫茶	14.2	0.3	2か月連続プラス
サービス	5.2	0.1	3か月連続プラス
その他	6.2	0.2	10か月ぶりプラス
商品券	-52.0	-3.4	12か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・佐藤・西田まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>